

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の既習事項が定着していない。文章をひらがなで書く生徒がクラスに1～2名程度いる。</li> <li>・自分の考えを具体的に分かりやすく伝える力に課題がある。特に作文に対する苦手意識のある生徒が多い。</li> <li>・平易な言葉や具体例を挙げないと理解ができない生徒が多い。</li> <li>・学習に関する興味・関心は高いが、家庭学習の習慣が確立されていない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査等の結果から、心情や構成はある程度理解できているが、根拠を文章中から探すことを意識できていない生徒がいる。</li> <li>・そのため、心情説明を丁寧に表現できないことは課題である。</li> <li>・文法の学習では、基礎が定着せずに混乱している生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の要旨は捉えられるが、質問の本質を理解して適切に答えられない生徒が多い。</li> <li>・語彙力が不足しているため、豊かな意見や感覚を持ちながらそれを言葉や文章で伝える事が苦手な生徒が多い。</li> <li>・中学2年までの漢字力が定着しておらず、基本的な得点力を上げることができていない。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読むことや書くことに苦手意識もあるが、授業中の課題には意欲的に取り組む生徒が多い。</li> <li>・板書を写すだけでなく、自分の考えや他の生徒の発言等をノートに書く生徒が一定数いる一方で板書を書き写すことに時間がかかり、それだけで精一杯な生徒もいる。</li> <li>・自主的に発言・発表する生徒に偏りがある。指名されれば発言できる生徒は多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の振り返りでは、自らの理解度を理解できたことにとどまらず、理解できなかったことまでしっかりと言葉にして表現できている生徒が多い。</li> <li>・グループで話し合いを行い意見交換が活発に行われている。</li> <li>・メモをしたり他の生徒の発言を加えたり、自分なりのノートのまとめ方を工夫できる生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が意欲的で、落ち着いた態度で授業に取り組んでいる。メモをしたり他者の発言を加えて、自分なりのノートのまとめ方を工夫できる生徒が多い。課題にも意欲的に取り組むことができる。一方、各クラス数名ではあるが、個別の声かけや作業や質問内容の咀嚼が必要な生徒がいる。</li> <li>・話し合い活動に積極的に取り組む生徒が多いが、それらをまとめながら進んで発言する生徒に偏りがある。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深い学びに繋がる話し合い活動の仕方を身に付けさせること。また、話し合い以外にも自身の考えを書き、推敲する等、考えを深める工夫をすること。</li> <li>・記述式問題の答え方、文章を書く際の「型」や書き言葉の使い方を定着させること。</li> <li>・漢字や文法などの言語に関する知識・理解を高めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張や作品の主題について、自らの生活と結びつける学習では結び付けられるように工夫すること。</li> <li>・発問内容を簡潔にし、考えが深まるようなものにする。</li> <li>・記述式問題の答え方、心情の丁寧な説明を定着させること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字力・語彙力を高め、学習した言葉を文章や表現に活用する機会や意識を高める必要がある。</li> <li>・事実と意見、考えと根拠などの情報と情報の関係を捉えた論理的思考力を育てること。</li> <li>・聞き手の心に届く発信を意識させること。</li> </ul>

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標を達成するなかで、基本的な力を身に付けることができるように課題設定を行う。</li> <li>・より深い学習が達成できるように、小グループによる学びの機会を多く設定する。</li> <li>・授業ごとの漢字テストに取り組むなかで家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの根拠を文章中から探し、丁寧に説明できるよう取り組む十分な時間を確保する。</li> <li>・文法に対しての苦手意識がなくなるように、生徒が例文を作成する活動や、ICTを活用し基礎定着を目指す活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字力・語彙力を高め、学習した言葉を文章や表現に活用する機会や意識を高める必要がある。</li> <li>・事実と意見、考えと根拠などの情報と情報の関係を捉えた論理的思考力を育てること。</li> <li>・聞き手の心に届く発信を意識させること。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間のテーマを明確に示すとともに、「学んだことは何か」を確認し、振り返りをさせる。</li> <li>・各単元の身に付けるべき力を明確かつ簡潔な言葉で提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートなどをこまめに回収・返却をし学習の変容が確認できるようにし、第三観点の評価材料を増やし、日々の学習を評価に反映させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に即した振り返りで評価の観点を明確に提示し、達成度を生徒自身に確認させる。</li> <li>・スピーチ等については評価の観点を明確にし、生徒相互の評価と教員による評価を並行して行う。</li> </ul>

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に関して、意欲が高く授業中の発言も多い。</li> <li>・文章題に課題がある生徒が多い。</li> <li>・資料活用能力に、学力差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に関して、意欲が高く授業中の発言も多い。知識・技能に関しては、縮尺の求め方などの計算問題や用語の漢字・カナ文字のまちがい、混同が見られる。</li> <li>・思考力・判断力・表現力に、学力差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識・技能において、真面目に授業に取り組むことによって定着してきている。知識を活用して、考える力につなげることが今後求められる。</li> <li>・思考力・判断力については、基本的な知識の習得によって、少しずつ改善しつつある。表現力については、プレゼンテーション等で向上させていく必要がある。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班学習によく取り組み、話し合いも活発である。</li> <li>・積極的に発言する生徒は、家庭学習も意欲的である。</li> <li>・少数だが、学習に取り組むことができず、規律を乱す生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価では、90%以上の生徒が社会科に興味をもっており、授業の準備や提出物の取り組み状況から、学習に取り組む意欲は高い。</li> <li>・言語活動はメリハリをつけて学習できるが、自信をもって発言することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に授業へ取り組む生徒が多い傾向にある。授業の準備や提出物の取り組み状況から、基礎学力の定着と考える力を養う必要がある。</li> <li>・プレゼンテーション等の発表の場や話し合い活動を通して、表現力の向上と幅広い知識の習得が必要である。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くりかえしにより、学習の成果を定着させることが重要である。</li> <li>・家庭学習の習慣が付いていない生徒や、班学習や個人学習に主体的に取り組むことができない生徒も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えに自信をもって発言できるよう、基礎的な学力の定着と社会的な見方や考え方を養う。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びにつながるよう、グループ学習の発問や活動内容を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えに自信をもって発言できるよう、基礎的な学力の定着と社会的な見方や考え方を養う。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びにつながるよう、グループ学習やプレゼンテーション等の活動を増やす。</li> </ul>

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習→班学習→授業→復習→テストのサイクルを明確にし、予習・復習の呼びかけを通じて学習習慣の定着をはかる。</li> <li>・短い文章からはじめて、説明的な文章を書く力をのばしてゆく。</li> <li>・ふりかえり学習で学習内容の定着をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習を行う機会を設定し、生徒同士で教え合い、学び合える活動を重視し、思考力等の育成を図る。</li> <li>・単元のまとめにより、生徒の実態に応じた反復練習ができる機会を設ける。</li> <li>・ICTを活用し、具体的な資料を生徒に提示し、生徒の理解度を高める工夫を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習を行う機会を設定し、生徒同士で教え合い、学び合える活動を重視し、思考力等の育成を図る。</li> <li>・プレゼンテーションを行うことによって、深い学びや幅広い知識の習得につなげる。</li> <li>・ICTを活用し、具体的な資料を生徒に提示し、生徒の理解度を高める工夫を行う。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト等の課題で、基礎・基本の定着や技能・思考を確認し評価する。</li> <li>・定期的に、「ふりかえり票」を配布し、テスト・小テストなどの定着を生徒自身に確認させ、自己評価できるようにして、評価を次の学習につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査では知識・技能の程度を中心に、ワークシートでは思考力等を中心に評価し、授業内容が定着しているかを確認する。</li> <li>・ワークシート等は、どの観点で評価しているか、明らかにして定期的に回収し、生徒へフィードバックを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識・技能」と「思考・判断・表現」の2観点を、主に定期テストで評価していく。習得した知識をベースにし、考える力が身に付いたかを評価していく。</li> <li>・ワークシートは、作業をしっかりとやっているかを判断すると同時に、社会的な事象について明確に考えを述べているかを評価していく。</li> </ul>

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数、分数の計算が苦手な生徒が多い。また、苦手意識から小数、分数の計算に取り組もうとする生徒が多い。</li> <li>・正負の数の問題は、基礎基本の内容は定着している。また、色々な考え方で考える力がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつ数学に対して苦手意識をもち出している生徒がいる。</li> <li>・1年生の頃の内容が定着している生徒と定着していない生徒の差が開き始めている。</li> <li>・関数分野は苦手な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学に対して苦手意識が高い生徒が「出来ない」と思い込み、学習に対して後ろ向きな生徒の割合が多い。</li> <li>・基本的な計算問題はよく取り組めるものの、文章問題の読解に課題をもつ生徒の割合が多い。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に参加し、発言する生徒も多い。ノートをしっかりとする生徒も多い。しかし、家庭学習がなかなか身につけていないことが課題である。</li> <li>・意欲的に取り組むことができるが、わからないところをわかるまでじっくりと取り組むことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活発な生徒とそうでない生徒の差が大きくなっている。また、授業内容に集中できていない生徒がいる。</li> <li>・ノートは良くとれているが、それが家庭学習などの自己の学習につながっているかは、分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードなどについては、しっかりと記入する生徒が多いが、問題に対して粘り強く取り組む姿勢を作っていく。</li> <li>・ワークの活用方法による習熟に差があり、十分に演習ができていない生徒がいる。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の既習事項で不十分など、どこを授業でどのように扱い、どのように定着をさせていくか。</li> <li>・習熟度別の授業で学力の差が大きくなっていかないようにしていかなければならない。</li> <li>・お互いに意見を共有したり、意見を交換できる場が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発展クラス、標準クラスそれぞれのクラスに応じた指導を通して、学力に差が出ないように配慮する必要がある。(スモールティーチャーなどを活用する。)</li> <li>・やり方だけでなく、原理や用語を理解させる指導を行う。</li> <li>・学び合いや生徒が自分の考えを発表する機会を設けてはいるが、十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間の中で主体的に学ぶ時間(グループ学習の時間など)が少ない。</li> <li>・習熟度別少人数展開から単級での授業に形態が変わり、分からない点を質問しづらくなっている面があるように感じる。</li> </ul>

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別の授業のみではなく学び合いの授業ができるようなクラス授業や習熟度別ではない少人数授業を取り入れてみる。</li> <li>・小学校の内容や既習事項の復習に力を入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり方だけでなく、なぜそうなるかなどを学び合い活動を通して理解させる。</li> <li>・スモールティーチャーを活用し、苦手な生徒を減らしていく。</li> <li>・授業毎に授業の振り返りを行い、その日の内容を定着させる。</li> <li>・確認テストを増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールステップが出来るように、段階的な問題を用意し、グループによる学び合いの時間などで達成感を与えていく。</li> <li>・課題に取り組む時間を確保し、机間指導の中で細かな指導ができるようにする。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題集やノートをこまめに確認し、解き直しの力を身につけさせる。</li> <li>・個人で静かに取り組むだけではなく、言葉を使って表現する、思考・判断・表現の力を身につけさせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テストを行い、数学に対する主体性や知識・技能、思考・判断・表現の力を評価する。</li> <li>・授業内の課題や話し合い活動への参加の状況、また自身の考え方の説明の状況などから評価する。</li> <li>・レポートやテスト直しの課題をだし、評価していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題については統一の問題だけでなく、段階的な問題を用意することで、「主体的に学ぶ力」を身につけさせたい。</li> </ul>

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の取り組みや授業アンケートの結果から理科に対しての興味関心が高いことがうかがえる。</li> <li>・知識は身に付いているが、それを使って、現象等の説明などの思考、表現力が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の発言や提出物等への取り組みから自然事象への関心が高いことがうかがえる。</li> <li>・【化学変化】を化学式で表現するなど、思考力を要する内容に対して苦手な生徒がやや多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢から、授業に対して前向きに取り組もうとする生徒が多いように感じる。</li> <li>・授業内容を自分の生活等に結びつけ主体的に取り組んでいこうとする生徒はまだ少ないように感じる。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に意欲的に取り組む生徒が多いが、なかなか集中して授業に取り組むことができない生徒がいる。</li> <li>・話し合い活動にも積極的に取り組むことができる。</li> <li>・提出物はよく出ているが、内容が完全でないものが多いので、指導していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に意欲的な生徒が多く、落ち着いた態度で授業に取り組むことができる。</li> <li>・話し合い活動にも積極的に取り組むことができる。</li> <li>・宿題の提出率は高いが、効率の良い取り組みができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が落ち着いて学習に取り組む、観察、実験に正しい操作で協力して取り組むことができる。</li> <li>・1, 2年生の学習内容を忘れてしまっている生徒が多い。</li> <li>・まだ全員に家庭での復習習慣を身につけさせることができていない。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果を理解することはできるが、そこから日常生活や自然現象と関わりをもたせて考えを深めることが苦手である。</li> <li>・授業で行った内容を家庭で振り返ったり、家庭学習を意欲的に進める力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験等の結果から考えられる考察を深める力を高めるために、自分の考えを文章にして、話し合いや発表などの言語活動を充実させる必要がある。</li> <li>・授業内で振り返りを行う場面を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表や話し合いなどの言語活動をより活性化させる必要がある。</li> <li>・思考課題や実験結果の考察についてより深く考えられるように、科学的に思考する力をより高めていく必要がある。</li> </ul>

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や自然現象との関わりを意識させながら、興味・関心を高めるとともに、科学的思考力を深めさせる授業を行う。</li> <li>・授業内で話し合い活動などの自分の意見を発表する機会を多く設ける。</li> <li>・家庭学習を充実させるため、ワークによる課題の取り組みを充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科と日常生活との関わりを題材にし、興味・関心を高めるとともに、科学的思考力を深めさせる。</li> <li>・授業内でアウトプットをする場面を増やし、知識の定着と理解を深めさせる。</li> <li>・家庭学習を充実させるため、ワークによる課題の取り組みを充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考課題についての意見発表の場を充実させ、他の意見を取り込んで自分の考えを深めていけるような場面設定を目指す。</li> <li>・身近な自然現象と学習内容の関連付けを意図的に行い、生徒の興味関心を高める。問題演習の時間を増やす。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験結果からどのようなことを導き出せるか、記入させる。</li> <li>・小テストを用いて、知識、思考を評価する。</li> <li>・ワークの取り組み、振り返りを定期的に確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験のプリントの結果、考察、まとめ、感想の内容を確認する。</li> <li>・単元テストでの取り組み。</li> <li>・ワークの取り組み、振り返りを定期的に確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考課題や実験レポートの考察に書かれる内容から評価する。</li> <li>・定期考査の振り返りレポート等の記載内容から評価する。</li> </ul>

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識が身に付いていない。音符の長さの割合において、数学的思考方が苦手である。</li> <li>・明るい表情で音楽活動をするが、荒削りである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の基礎が身につけてきている。</li> <li>・歌唱やリズム打ちなどの音楽活動に意欲的に取り組むが、丁寧さに欠ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の知識は身につけており、定期考査前の家庭学習も充実させている。</li> <li>・歌唱活動など、声を出すことに躊躇している生徒が多い。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識(音符と休符の長さの割合など)の理解が困難な生徒が多い。</li> <li>・話を聴いてから取り組む姿勢に難がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門用語に苦手意識をもつ生徒がいるが、意欲的に授業には取り組んでいる。</li> <li>・新曲にためらいがあり、活発でなくなってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽史の内容に興味をもち、ワークシートへの記入も着実である。</li> <li>・大きな声を出すことには、まだためらいが見られる。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識を身に付けさせ、音楽活動の実践に結び付ける。</li> <li>・感染症対策に配慮しながら、歌唱活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽についての基礎知識を身につけ、工夫して表現させる</li> <li>・明るく豊かな感性を喚起するために授業展開を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧でゆっくりと説明を行い、リピート学習にて知識を定着させる。</li> <li>・音楽活動への意欲を喚起する雰囲気作りに努め、歌唱のリーダーを育成する。</li> </ul>

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎のプリント類にて、毎時間繰り返し学習させる。</li> <li>・響きのある声を感じさせ、実践する意欲を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎知識についてのワークシートに毎時間取り組ませ、ゆっくり解説をする。</li> <li>・深く考えて表現に結びつける習慣を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習問題やまとめのプリントを繰り返し、理解につなげる。</li> <li>・観察に配慮し、個別指導をして合唱のリーダーを育成する。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント類の点検と定期的な小テストにより、定着度を確認する。</li> <li>・実技テストで、個々の歌唱力を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの点検、定期的な小テストにて理解度を確認する。</li> <li>・ワークシートへの記述、実技テストや授業での観察にて評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの点検、小テストによる理解度を確認をする。</li> <li>・助言や考察(ワークシート)を生かした表現ができているか、実技テストにて評価する。</li> </ul>

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・全体的に授業に対して意欲的に取り組む生徒が多いが、知識の定着には個人差がみられる。また、技能については全体的に高い発想力がある。	・学力的に支援を要する生徒がおり、作業の指示が理解できず個別の指示出しが必要な生徒が各クラスに数名ほどいる。	・全体的には意欲的に作業に取り組む様子が見られるが、見通しを持って制作に取り組み、期限までに終わらせる力が低い生徒がみられる。
学習状況	1学期中は文字だけでなく視覚的に示す事で色についての基礎的な知識を身に付けた。	・ほとんどの生徒は簡単な指示で制作に取り組み、自分で工夫を考えて制作することができる。また、発展的な色の学習もした。	・平面と立体バランスよく学習が進んでおり、画面の構成や美術史的な知識の学習をした。
指導上の課題	・自他共に作品に対しての鑑賞力を身に付けるとともに、自身の作品を省みて試行錯誤をするたに、より幅広い知識の定着が必要とされる。	・個人での技能の差が大きいので個別の対応が必要になるが、全体での授業の質が低くならないようにバランスを図っていかねばならない。	・見通しを持って長期的な制作に取り組んだり、一時間あたりの作業量を考えたりすることが苦手な生徒が多い。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・さまざまな分野の学習や制作の中で鑑賞の機会を増やし、体験的に知識の定着と技能の向上を図る。	・机間指導を計画的に行い、単純な作業でも繰り返し指導することで定着を図る。	・制作の際に予定時数の明示をして、計画を立てさせたり、毎時間の振り返りをさせることで計画性をもたせる。
評価方法	・鑑賞やふり返りでの反省を記入させて、生徒の記入内容から体験や思考を読み取る。	・完成作品や定期考査の結果から基本的な知識や技能の定着がなされているか読み取る。	・毎時間生徒の作品の進み具合を確認することで、計画的に進んでいるかの確認をする。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に主体的に取り組む生徒が増え始めてきた。学習カードの記入など、自己を分析して課題解決を図る生徒が少ない。また、学習した内容を、言葉や文章で表現することが苦手である。</li> <li>各単元での知識と特性の理解を身に付けている生徒が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動への主体的に取り組む生徒が増え始めてきた。学習カードの記入など、自己を分析して、自らの言葉や文章に表して課題解決を図る生徒が少ない。</li> <li>各単元での知識と特性の理解を身に付けている生徒が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動へ主体的に取り組む生徒が増えてきた。</li> <li>学習カードの記入において、自己を分析して、考えを表現できる生徒が増えてきている。</li> <li>ルールや競技に必要な知識については、よく学習している。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団行動や授業規律が定着しつつある。</li> <li>仲間と共に学習し、運動への向上意識は芽生え始めているが、声かけが抽象的である。</li> <li>男女共習でお互いの良さを認められるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団行動や授業規律が定着しつつある。</li> <li>仲間と共に学習し、運動への向上意識は芽生え始めているが、声かけが抽象的である。</li> <li>男女共習でお互いの良さを認められるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団行動をはじめ、授業規律における意識は大変高い。</li> <li>男女共習においても、分け隔て無く協力する姿が見られる。</li> <li>話し合い活動を積極的に行うことができる。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>より分かりやすい説明を心がけ、積極的に活動できる環境を作る。</li> <li>話し合い活動を取り入れ、自ら考え行動できる場面を設定する。</li> <li>学習カードの書き方の助言が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より分かりやすい説明を心がけ、積極的に活動できる環境を作る。</li> <li>話し合い活動を取り入れ、自ら考え行動できる場面を設定する。</li> <li>学習カードの書き方の助言が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より分かりやすい説明を心がけ、積極的に活動できる環境を作る。</li> <li>話し合い活動を取り入れ、自ら考え行動できる場面を設定する。</li> <li>学習カードの書き方の助言が必要である。</li> </ul>

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律の徹底を継続する。</li> <li>男女共習により、互いの学びができる話し合い活動をより活発に行わせる。</li> <li>運動量の確保を行う。</li> <li>ワークシートを活用し、自己の振り返りを行わせる。</li> <li>安全への配慮をさらに徹底する。</li> <li>個々の違いに応じた課題や挑戦の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律の徹底を継続する。</li> <li>男女共習により、互いの学びができる話し合い活動をより活発に行わせる。</li> <li>運動量の確保を行う。</li> <li>ワークシートを活用し、自己の振り返りを行わせる。</li> <li>安全への配慮をさらに徹底する。</li> <li>個々の違いに応じた課題や挑戦の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律の徹底を継続する。</li> <li>男女共習により、互いの学びができる話し合い活動をより活発に行わせる。</li> <li>運動量の確保を行う。</li> <li>ワークシートを活用し、自己の振り返りを行わせる。</li> <li>安全への配慮をさらに徹底する。</li> <li>個々の違いに応じた課題や挑戦の機会を設定する。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取り組み状況。</li> <li>ワークシートの記入状況。</li> <li>定期考査。</li> <li>実技では記録だけでなく、フォームの完成度も評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取り組み状況。</li> <li>ワークシートの記入状況。</li> <li>定期考査。</li> <li>実技では記録だけでなく、フォームの完成度も評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取り組み状況。</li> <li>ワークシートの記入状況。</li> <li>定期考査。</li> <li>実技では記録だけでなく、フォームの完成度も評価する。</li> </ul>

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・工具、機械の正しい使用法はおおむね理解している。製作図をかき力が若干不足している。作品の構想について、アイデアの広がりには差が生じている。	・工具、機械の正しい使用法はおおむね理解している。細かい電子作業の習得については個人差が生じてきている。	・工具、機械の正しい使用法はおおむね理解している。電子部品を基板に取り付ける作業は、ほとんどの生徒ができています。
学習状況	・作品の製作に関心を高くもち、意欲的に取り組んでいる。作業上の注意を守りながら、安全に気を付けて作業を行っている。	・作品の製作に関心を高くもち、意欲的に取り組んでいる。作業上の注意を守りながら、安全に気を付けて作業を行っている。	・作品の製作に関心を高くもち、意欲的に取り組んでいる。技術の見方、考え方が身に付いている生徒もいる。
指導上の課題	・「生徒の質問に対応する」の授業評価がやや低いので、机間指導を増やし、生徒一人一人に対応していくように授業改善に取り組む。	・「理解度に合わせた授業」の項目がやや低いので、授業の進め方を生徒に理解度を確認しながら取り組むように授業改善していく。	・「理解度に合わせた授業」の授業評価がやや低いので、説明の速さを落とすことと作業進度に合わせた説明のタイミングを見計らうよう改善する。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・工具類の使い方を学習し、板材を使用した自由題材を使って木材加工を実施する。ただし、設計しやすいようにワークシート等段階を踏んで進められるように改善する。	・栽培に関わる基礎知識を学習しつつ、実際に大根栽培を育てる技能実習に活かしていくように授業計画を改善し、あんどん製作にも取り組んでいけるようにする。	・計測、制御に関する技術の内容を学習する。計測、制御が社会にどのような分野で利用されているかなど、事例を挙げながら分かりやすく提示していく。
評価方法	・振り返りシート、ワークシートの記入状況、および作品の完成度、及び実技の取り組み、工具類の使い方から判断する。	・振り返りシート、問題発見シート、ワークシート、栽培の記録の記入状況から、主体的に学ぶ取り組みを判断する。	・振り返りシート、問題発見シート、ワークシートの記入状況から、特にフローチャートが理解できているか判断する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活についての関心は高いが、基礎的知識の理解は個人差が大きく、不十分な傾向がある。</li> <li>・1学期は基礎的、基本的な知識の習得を徹底した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の生活の中で身近な問題を見付けることができる。</li> <li>・衣生活に関しては関心の高い生徒もいるが、一方で興味関心の低い生徒もみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを理解し、身に付けている生徒が多い。</li> <li>・消費生活についての関心の高い生徒もいる一方で、興味関心の低い生徒もみられる。深く考え、自分のことばで表現する力が不十分な生徒もいる。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が落ち着いて、意欲的に学習に取り組むことができている。</li> <li>・ノート、ワークの記入状況もよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が落ち着いて学習に取り組む、知識も定着してきている。</li> <li>・課題の記入状況もとてもよい。</li> <li>・生活の中で課題を見付け、解決するために必要な深く考える力、思考力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が落ち着いて、意欲的に学習に取り組む、知識も定着している。</li> <li>・課題の提出状況もとてもよい。</li> <li>・より深く思考する力を高める必要がある。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であり、調理実習ができない状況であるが、授業で学んだことをふまえ、家庭での調理を通して、栄養的特徴や調理上の性質について理解の定着と実践力を身に付けさせる。</li> <li>・デジタル教科書を用いた調理実習の映像など ICT 機器を効果的に利用し、家庭での実践力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を理解し、実習、課題に取り組む力を高めるために、授業中の個別指導や補充課題を充実させる。</li> <li>・安全に実習を行うための知識・技能を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークを活用し、学び合いによって学習課題を解決できる場を設定していく。</li> <li>・全体指導の後、つまずきのみみられる生徒には個別対応をし、基礎的・基本的な内容を習得させる。</li> </ul>

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を明確にする。</li> <li>・食品カードの活用、デジタル教科書などの視覚的資料、教材を用いて分かりやすい授業を行う。</li> <li>・実習のまとめや考察の場面でグループワークなどの言語活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を明確にし、見通しをもたせた展開にする。実物見本、タブレットを活用し、視覚的資料を掲示する。</li> <li>・全体説明の他に個別説明を通して基礎、基本の定着を図る。</li> <li>・実習や考察の場面でグループワークなどの言語活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図るため全体説明の他に理解が不十分な生徒に対して個別に説明をする。</li> <li>・実習のまとめや考察の場面では、グループワークなどの言語活動を充実させる。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート、ワークの記入状況、課題レポートの内容、授業への取り組み状況。</li> <li>・定期考査、及び実技の取り組み状況。</li> <li>・授業や単元の「振り返り」を通して毎時間の学習内容の定着度を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート、ワークの記入状況、課題レポートの内容、授業への取り組み状況。</li> <li>・定期考査、及び実技の取り組み状況。</li> <li>・授業や単元の「振り返り」を通して毎時間の学習内容の定着度を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの記入状況、課題レポートの内容、授業への取り組み状況。</li> <li>・定期考査、及び実技の取り組み状況。</li> <li>・スモールステップで学んだことを振り返らせるとともに、達成度を生徒自身に確認させ、評価につなげる。</li> </ul>

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的実践力は個々に差があるが、テーマについて受け止める力がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的実践力は個々に差があるが、テーマを意識した学習ができる。内容を深く考え、自己の考えや思いを記述できる生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み、道徳的価値に迫る思考をすることができる。自己の考えや思いを記述できる生徒が多い。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み、発問に対し考え、自分の考えを記入するなど、授業に取り組む姿勢ができています。</li> <li>・小グループでは積極的な発言が多く見られる。全体の場でも、積極的に挙手をし、発言できる生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや気持ちを文章に表現し、他者に伝えることが出来る生徒が多い。</li> <li>・キラリノートの振り返り欄に、授業内で感じたことや気付いたことを書き、自分と向き合うことが出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを文章で表現し、グループ内で活発に意見交換ができる。</li> <li>・振り返りをキラリノートに記入し、自己の考えを深めることができる。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に自己の考えを深める機会を与え、自己の考えを文章でまとめて表現させること。</li> <li>・道徳的実践力を養うために日常生活と結び付け、継続的な指導をすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導内容を押しつけないように、生徒自らが道徳的価値を見いだせるような授業の工夫をすること。</li> <li>・道徳的実践力を養うために日常生活と結び付け、継続的な指導をすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が考えを深められるよう、教材や導入の工夫をすること。</li> <li>・道徳的実践力を養うために日常生活と結び付け、卒業後の社会的自立を目指した指導を行うこと。</li> </ul>

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的実践力を育成するため、まとめて自己の考えを振り返るとともに、フィードバックする場面を作る。</li> <li>・他者と話し合うなかで、様々な価値観を認める態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動の時間を増やし、自己の考えと他者の考えを比較・検討しながら様々な価値観を認める態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習や少人数での活動の場面を増やし、自己の考えと他者の考えを比較しながら様々な価値観を認める態度を養う。</li> <li>・視聴覚教材を適切に取り入れる。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ココログノート」を用いて一時間ごとに自己評価をさせることで道徳的な価値観の変容を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キラリノート」への記入内容、意見発表、タブレットへの入力内容からどれほど深く考えることができたかを評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己と向き合い、考えることができたか、発表内容や「キラリノート」の記述内容から確認し評価する。</li> </ul>